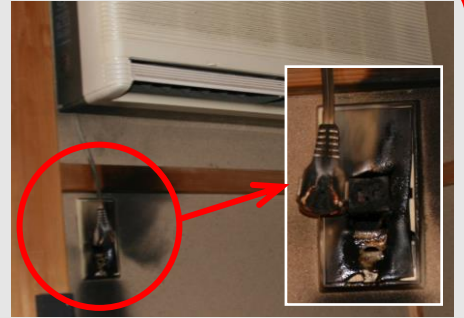


コンセントから出火！トラッキング現象？

どこの家庭の壁にも付いている電気コンセント。そんな電気コンセントから火災が発生することがあります。その原因のひとつ『トラッキング現象』と『トラッキング現象から火災が発生する仕組み』について解説します。

■ トラッキング現象

電気製品の差し込みプラグを電気コンセントに差したままにしていると、プラグとコンセントの隙間に徐々に綿ぼこりなどの付着物が溜まります。その付着物が湿気を帯びると付着物の間で小さな放電を繰り返して、しだいにプラグなどの両極間に電気を流す通路（トラック）を形成します。この現象を『トラッキング現象』と言います。



■ トラッキング現象から火災が発生する仕組み

トラッキング現象の起こり初めは、形成された通路に流れる電流が小さいため、炎を上げて燃え出すことはありません。しかし、トラッキング現象は、炎を上げず、燃え出さず静かに進行していきます。そして、一定の段階を過ぎるとトラックを流れる電流値と発熱範囲が大きくなっているため、一気に炎を上げて燃え上がり火災になります。

トラッキング火災は、プラグがコンセントに差し込まれていれば、電気製品の電源スイッチを切っただけでも起こる可能性があります。家庭では、プラグをコンセントに入れたままにする冷蔵庫、エアコンやテレビなどで起こりやすく、台所や洗面所など湿気の多い場所も要注意です。



火災をまねく危険な現象は、トラッキング現象だけではありません！



この写真は、実際に一般の家庭で発生したコンセントからの出火事例のものです。プラグは、コンセントの下側に差し込まれていましたが、プラグとコンセント共に、その片方(左側)の極が激しく焼損しているのが分かります。

これは、コンセントの接続不良が原因で火災に至った可能性があることを現しています。(トラッキング火災では、通常、両極に焼損が見られます。)

コンセントにプラグが、しっかりと差し込まれていないと、接続不良の状態になり接触抵抗が増加、発熱して発火することがあります。

この現象は、電気製品を使用しているときに起こり、流れる電流が大きい程、接触抵抗値も増大し、発火する危険性が高くなります。



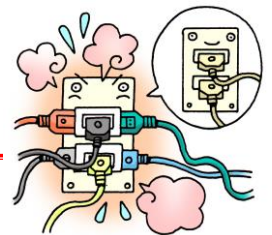
CHECK!

プラグがしっかりとコンセントに差し込まれていません。隙間やガタツキが、ありませんか？



要注意!

これは危険サインです。コンセントの差し込み口が、熱で焦っています。



類似火災の防止対策

- 定期的にプラグやコンセントについて「ほこり」を掃除しましょう。
- プラグは、コンセントと緩みがないか、隙間が開いていないか、点検しましょう。
- タコ足配線（許容電流を超える配線）は、やめましょう。
- 使用していない電気製品のプラグは、コンセントから抜いておきましょう。